

日々の授業での 生徒の様子を 最大限評価し、 教育目標の実現を目指す

福岡県立香椎高校

2015年度から、全教科・科目において観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）を実施している福岡県立香椎高校。

22年度より実施される新学習指導要領を見据え、

19年度からは、3観点による観点別評価に取り組んでいる。

定期考査以外の学習活動にも重きを置き、

積極的に見取り、生徒を次の学びに向かわせる

同校の学習評価の実践について聞いた。

年間指導計画で 観点別評価の全体像を示す

福岡県立香椎高校は、2015年度から、全教科・科目において観点別評価を実施している。「加

点法」の考え方で同評価を行い、最終的には評定に結実させてい

る。具体的には、定期考査の配点を100点、定期考査以外の学習活動の配点を100点とし、合計200点満点（3学期はそれぞれ配点50点とし、100点満点）で各学期の評価を行う。定期考査以外の学習活動とは、主に生徒が授業中に行う学習活動を指し、そこ

で生徒が発揮した資質・能力を主に評価し、点数として加算する。

15年度に教務部長として観点別評価の実施に尽力し、今年度から教頭として勤務する松尾勝之先生は、当時の思いを次のように振り返る。

「これまで私たちは、定期考査の結果を重視し、学習過程における活動や成果にはあまり目を向けていませんでした。しかし、そうした学校による生徒の評価と、職場や地域で活躍できているかどうかという社会での評価との間にずれを感じる教師は、私を含めて少なくはなかったのではないのでしょうか。定期考査の実施時点での学力を評価することに加えて、生徒の日々の学習活動を評価することで、社会による生徒の評価に近くことができ、また、定期考査の結果が振るわない生徒に対してもよいところを見つけて評価することで、生徒の学びの意欲を高めることができると考えました」

現在の同校の観点別評価は、各教科で科目別に作成する年間指導計画（**図1**）に基づいて行われる。

年間指導計画では、まず、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点それぞれについて、何ができるようになることを目指しているのかを「評価規準」として定める（**図1**の①）。

観点別評価を評定に総括する際の3観点の重みづけは、それぞれ30〜40%の範囲内で各教科で決定する（**図1**の②）。そして、各学期、3観点それぞれをどのような学習活動を通じて、どんな割合で評価するかを、各教科で定める（**図1**の③）。

さらに、3観点の評価規準について、それぞれの到達度を、「評価基準」として単元、指導内容ごとに定める（**図1**の④）。また、同校は、読解力などの教科横断的に求められる資質・能力の育成や、そのために必要な主体的・対話的で深い学びの実現などを、教科・科目共通の目標として掲げ、その達成に向けてアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善やICT活用を推進しており、各単元でどのような指導上の配慮や工夫

を行うおとししているのかも、年間指導計画に記載する(図1の⑤)。生徒主体の活動を中心とした授業展開にすることで、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価しやすくしている。



教頭
松尾勝之
まつお かつゆき
教職歴27年。同校に赴任して通算14年目。数学科。

教務部長
伊原豊
いはら ゆたか
教職歴26年。同校に赴任して8年目。地理歴史・公民科。

教務課長
西岡賢吾
にしおか けんこ
教職歴10年。同校に赴任して5年目。数学科。

学校概要

設立 1921(大正10)年

形態 全日制/普通科・フッショナルデザイナー科

生徒数 1学年約320人

2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、九州工業大、福岡教育大、熊本大、大分大、神戸市外国語大、北九州市立大、福岡女子大などに73人が合格。私立大は、芝浦工業大、東洋大、立命館大、関西大、関西学院大、西南学院大などに延べ749人が合格。

日々の授業の中で
生徒を丁寧に見取る

定期考査に加えて、パフォーマンス課題や小テスト、振り返りシート、授業態度などを通じて生徒を多面的に見取る、同校の学習評価は、授業のあり方にも影響を与えている。

21年度、同校の全教科・科目が、授業態度を「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象とし、同観点の配点の50%を充てている。教師は、グループワークなどで生徒を見取っていくことになるが、1コマの授業内で40人の生徒全員を見取るのは容易ではない。松尾教頭は、全員ではなく、印象に残った生徒の簡単な言動の記録だけを残しておけばよいと説明する。

「座席表型の日々の評価表(P.16図2)を使い、ルーブリックで示した基準を超えた生徒にA(基準に満たなければC)をつけ、その理由を簡単にメモしておきます。それ以外の生徒の評価は、通常の基準を満たしているとしてBとします。教師の評価者としての

視線をAまたはCの評価となる生徒の発見に絞ることで、教師が授業をしっかりや進めながら、『主体的に学習に取り組む態度』を評価できるようにしたのです。また、

面談などで、生徒に『君は、この日の授業でこんな発言をしていたからAにしたんだよ』と、過去の記録に基づいて評価の結果を説明すると、生徒は、『授業での努力

図1 年間指導計画

| 令和3年度年間指導計画 | | | | | | | | | |
|---|------|-----|------|------|------|---------|------|-------|-------|
| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 指導年級 | 職 | 教諭 | 氏名 | 印 | |
| 数学 | 数学ⅡB | 6 | 2 | 1 | 教諭 | 松尾勝之 | | | |
| <p>① 生きて働く「知識・技能」の習得(知) 【何を理解しているか、何ができるか】</p> <p>② 『主体的に学習に取り組む態度』の育成(態) 【どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか】</p> <p>③ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的に発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>④ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> | | | | | | | | | |
| 年間指導目標 | | | 定期考査 | | 小テスト | 振り返りシート | 授業態度 | 合計(点) | 比率(%) |
| 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、日常の事象等を数学的な着眼を用いて簡潔・明確・的確に表現したり、数学的な表現を解釈したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする態度を育てる。 | | | 150 | 0 | 50 | 0 | 0 | 290 | 40.0 |
| 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自主的・協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図る。 | | | 60 | 60 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 遠慮敬重の観点、生徒が互いに認め合う姿勢を育むとともに、理解できたという経験から自己存在感を感じるような指導をする。 | | | 100 | 50 | 0 | 0 | 0 | 150 | 30.0 |
| 指導上の留意点 | | | 40 | 40 | 20 | 20 | 10 | 0 | 0 |
| ⑤ | | | 0 | 35 | 0 | 40 | 75 | 150 | 30.0 |
| ④ | | | 0 | 0 | 15 | 5 | 0 | 15 | 15 |
| ③ | | | 250 | 85 | 50 | 40 | 75 | 500 | 100.0 |
| ② | | | 100 | 100 | 50 | 35 | 15 | 20 | 20 |
| ① | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑥ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑦ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑧ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑨ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑩ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑪ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑫ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑬ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑭ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑮ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑯ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑰ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑱ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑲ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ⑳ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉑ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉒ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉓ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉔ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉕ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉖ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉗ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉘ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉙ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉚ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉛ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉜ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉝ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉞ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㉟ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊱ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊲ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊳ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊴ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊵ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊶ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊷ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊸ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊹ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊺ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊻ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊼ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊽ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊾ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |
| ㊿ | | | 15 | 20 | 10 | 15 | 15 | 10 | 30 |

※学校資料をそのまま掲載。

図2 座席表型の日々の評価表

※学校資料をそのまま掲載。

をちゃんと見てもらえていて、うれしいです』とさらに授業に集中するようになります」(松尾教頭)

日々の観点別評価の結果は表計算ソフトに入力し、点数化する。入力するセルにはあらかじめすべてBを入力しておき、A、Cの結果となった生徒の該当のセルのみ、評価の結果を変更することで作業を簡略化している。

教務課長で数学科の西岡賢吾先生は、自身の授業内で「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する工夫を、次

のように説明する。

「数学の授業では、身近な事象を考察したり、会話文から必要な情報を抜き出して立式したりするなど、暗記した定理・公式にあてはめるだけでは解けない問題を出すようにしています。そうした問題を解く際に見られる生徒のユニークな視点なども座席表型の日々の評価表に記録して、『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の評価につなげていきます。また、授業では毎回、前時の学習内容に関連する例題について、当番の生徒が教師役(スモールティーチャー)になって解説する時間を設けています。その活動も、パフォーマンス課題(図3)として、『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』の評価の対象にしています」

教務部長で地理歴史・公民科の伊原豊先生も、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を測るため、授業に多様な活動を取り入れている。

「各単元に、ペアやグループで取り組むパフォーマンス課題を盛

り込んでいます。最近では、ペアで原子力発電のメリットとデメリットを整理した上で、自分の考えをワークシートに記入し、発表させました。ワークシートはいったん回収し、私が評価をした後、生徒に返却しました。ワークシートにはあらかじめループリックを記載していたので、生徒は私の評価とともにワークシートの記述内容を見直しました。また、地理Bでは、定期考査の振り返りシートを、『主体的に学習に取り組む態度』の評価の資料としています(図4)。

がら、どこができていなかったのか、なぜできなかったのかを生徒が自分で分析し、その結果を記入したシートを提出させて、後日、私が評価した上で返却します。生徒は、振り返りを通して、定期考査で解けなかった問題を再確認するとともに、次の定期考査に向けて自分の学習のあり方を見直すことができている」

**評価の改善には
教師同士の対話が不可欠**

現在、同校では、パフォーマンス

図3 パフォーマンス課題の実践例

| 科目 | 実践事例 |
|---------|---|
| 現代文B | 教科書の題材に即した新聞記事や入試の小論文の過去問題の課題文を用いて、400字程度の小論文を書かせたり、その内容をプレゼンテーションさせたりした。 |
| 地理B | 熱帯林が減少するとどのような影響があるのか、また、減少しないようにするためにはどのような取り組みがあるのかを、グループで考察し、発表させた。 |
| 数学I・A | 実生活と直結するような事象を題材としたパフォーマンス課題を実施し、生徒の記述から思考力を評価した。また、生徒に練習問題の解答を発表させ、思考力や表現力を評価した。 |
| 化学基礎・化学 | 単元ごとに学習内容を1枚ポートフォリオにまとめさせ、提示したループリックに沿って、思考力などを評価した。 |

※学校資料を基に編集部で作成。

ス課題や小テスト、振り返りシート、授業態度といった、定期考査以外の評価対象ごとのABC評価を表計算ソフトに入力し、得点化している。それに定期考査の結果を加えて科目ごとに合計得点を算出し、得点率80%以上は5、65%以上80%未満は4などと評定に換算している。既に観点別評価を実施して7年目となり、観点別評価や評価と一体化した授業のあり方についての理解は校内に浸透しているが、それでもなお、改善の余地が残されているという。

「例えば、数学における『主体的に学習に取り組む態度』の評価では、毎回の授業の振り返りシートの評価点が同観点の配点の約30%を占めます。ただ、『最初はこうだったけれど、今はこうなった』と、学習への取り組みの変化を客観視して記述するのが苦手な生徒もいます。しかし、うまく書けていないから成長がないと言うわけではなく、生徒に話を聞いてみると、数学的な見方や考え方が深まっていることが分かることもあります。生徒の成長を見取る、

図4 定期考査の振り返りワークシート

| 年次 | 概要 |
|--------|---|
| 1960年代 | 高度経済成長により、農業は国民食の供給と原料供給の減少、兼業化し農産物の輸出の安定を促した。 |
| 1970年代 | 米の消費量が減少したため、食料自給率の増加に対して「4-1」政策を実施した。 |
| 1980年代 | 1981年、「5-6」の輸入自由化。 1989年、米の自由化による米需(タイ米など)の緊急輸入をきっかけに、1990年(第1期)の自由化開始。1989年には他の農産物の輸出も開始。 |
| 2000年代 | 2001年、お米、お肉、お魚、お野菜、おくだもの輸出解禁。 2009年、「8-9」の輸出解禁開始。輸出解禁の日本農産物の輸出が開始。 2009年、「8-9」の輸出解禁開始。輸出解禁の日本農産物の輸出が開始。 2009年、「8-9」の輸出解禁開始。輸出解禁の日本農産物の輸出が開始。 |

※学校資料をそのまま掲載。

より適切な方法を追究する必要があります」(西岡先生)

21年度は、特に「主体的に学習に取り組む態度」について、各教科会で評価規準の明確化に時間をかけているという。「分からない単語や熟語があった時に、自ら調べ、書いたり音読したりを繰り返して覚えようとしている」「自分の理解が不十分なところを解決するために、教師や仲間相談している」などと、「主体的に学習に取り組む態度」の表出を判断でき

る生徒の言動を言語化し、生徒に提示することを目指している。

「評価は、仕組みを作ったら終わりというものではありません。3学期には、観点別評価の年度総括会を行い、今年度の授業と評価は学校教育目標の達成に結びつくものだったのか、大きな視点で話し合います。特に、担当教師数が少ない教科・科目は、その教師の教育観で授業・評価のあり方が決まがちですから、学校全体で指導と評価について話し合い、その

実態を振り返ることが大切です」(伊原先生)

同校では、昨年度まで、教科によって家庭学習での課題の提出状況を「主体的に学習に取り組む態度」の評価項目に入れていた。しかし、教科会などで「家庭学習に取り組めるかどうかは、家庭の状況によって異なるのではないか」などの声が上がった。今年度は「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象から外している。

「本校では現在、生徒の自己評価は、評定の対象としていません。生徒の自己評価を軽視しているというわけではなく、教師が、『君は自分で思っている以上にできていますよ』『次はこの点に気をつけて学習してみよう』などと、生徒のよいところを見取り、次の学習に向かわせる声かけの材料として生徒の自己評価を活用しています。今後、生徒一人ひとりの状況に合わせて指導や評価へと変わっていくことでしよう。生徒の学力や気質の変化を見逃さず、評価のあり方も改善し続けたいと思います」(松尾教頭)